

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：64302

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370264

研究課題名(和文) 戦後日本文学の再「転向」- 舟橋家所蔵資料による大衆文学の新視点

研究課題名(英文) "Re-Conversion(Sai-Tenko)", New Perspective in Postwar Japanese Literature: Examining Funahashi Seiichi Private Collections:

研究代表者

石川 肇 (ISHIKAWA, HAJIME)

国際日本文化研究センター・インスティテューショナル・リサーチ室・助教

研究者番号：80596734

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：舟橋聖一の「戦後期資料」を基に、彼がとった戦後の大衆化路線の仕事とその歴史的意義を、関係する知識人や政治経済芸能との関係を踏まえながら究明し、最終的には先の戦前期研究成果(JSPS 科研費JP:24652055)と連動させ、舟橋とその時代の文学を総合的に解明した。1000通にもおよぶ著名人からの書簡類や、NHK大河ドラマの第一作目となった舟橋原作『花の生涯』関連資料を整理することにより、戦後アメリカの占領期が、日本人および日本社会に想像以上に大きな影響を及ぼし、舟橋が歴史小説を書く要因となっていたことも解った。

研究成果の概要(英文)：Based on Funahashi's materials after World War II and their relationships with the contemporary intellectuals and the field of politics, economy and entertainment, this project examined the historical significance of his postwar works in a more "popular" direction. connecting the result of this examination to that of another examination about Funahashi's prewar works (JSPS KAKENHI Grant Number JP:24652055) enabled this project to comprehend not only Funahashi's works but also the postwar Japanese literature. In particular, organizing the materials such as the 1,000 letters sent to him by various public figures as well as the documents referring to "Hana no Shogai", a fiction originally written by Funahashi and was adopted as the very first NHK's "Taiga" drama, brought a new perspective that the postwar American Occupation of Japan had a critical influence upon the people of Japan and its society much more than expected, and that was what drove Funahashi to write historical novels.

研究分野：日本近代文学

キーワード：舟橋聖一 近代文学 大衆文学 転向 新資料 井伊直弼 大河ドラマ 歴史小説

### 1. 研究開始当初の背景

2010年11月、人間文化研究機構は、国立大学付属研究所と連携し、日本人移民資料の蒐集や整理を行うプロジェクト「日本関連在外資料調査研究(近現代)」(2010-2016)を発足した。代表者は、そのプロジェクトの一環として海外向け欧文プロパガンダ紙『Japan To-day』(文藝春秋社、1938)の研究を行い、日中戦争期に日本文化の国際性をアピールした舟橋聖一ら4人の作家たちの英文記事を翻訳し、解説を付した。そしてその成果を、鈴木貞美編『「Japan To-day」研究 - 戦時期「文藝春秋」の海外発信』(作品社、2011)として世に提供することができた。これまで「外地」とは無縁と思われていた舟橋が、上記のような記事を書いていたことや、それ以前の1929年には大連・奉天・京城への旅を決行し、それに材を得た小説を残していることもわかった。滋賀県彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」にそれらを示す著作行動目録はあるが、その内実は検証されておらず、また、舟橋の残した戦前戦後の文化的価値の高い資料は未整理のままであった。こうした事実確認および新資料の発見を繰り返す中で、代表者は、平成24-25年度、科研費・挑戦的萌芽研究「舟橋聖一全作作成に基づく戦前期文学の総合的研究」において、舟橋の「戦前期資料」に焦点化し、その内実の検証を行った。その検証による成果は、新聞雑誌における論文掲載、国内共同研究会および中国・台湾における国際シンポジウムでの口頭発表、戦災を免れた戦前戦中期の貴重資料のデジタル化および展示、また、舟橋の東京帝大時代の卒業論文『岩野泡鳴の小説及び小説論』の発見・公開や、大正末期から終戦直前にかけて記した『戦前日記帳』16冊の発見・単行本刊行(2014春、刊行予定)というように、資料に適した形で公開することによって社会還元を果たした。それは、舟橋ら知識人と満洲・朝鮮・樺太といった外地との関連を浮き彫りにしただけでなく、特記すれば、戦中には国策文学と抵抗文学との両方を書き分けた戦前期の舟橋の文学および同時代作家の文学動向に新たな照明をあてることとなり、公的文書や資料からでは知ることのできない日本の「ファッション化」への動きをも捉えることができた。この新たな知見・発見を日本のみならず、近隣アジア諸国の文学研究に連動させ、共有できる文学史や歴史観を構築するためにも、今後は、舟橋聖一の「戦後期資料」の研究が急務となる。舟橋の「戦後期資料」の中には、戦前戦中から戦後に連続する日本文学や歴史の在り方に対し、新たな見解を導き出すことのできる有名作家や政治家からの葉書や書簡、舟橋手製のスクラップブックや資料箱、そして門外不出と記され、別保管されている「舟橋聖一遺書」(死去12日前作成)など、貴重資料が未だ手つかずのままの状態なのである。舟橋聖一は、戦前には知識人の行動主義文学運動の

中心を担い、戦中には谷崎潤一郎『細雪』よりも抵抗色の強い作品として知られる『悉皆屋康吉』を書き継ぎ、戦後にはNHK大河ドラマの第一作目となった『花の生涯』などを執筆、丹羽文雄、石川達三とともに「戦後の流行作家三羽ガラス」と呼ばれた作家である。それにもかかわらず、舟橋の文学史的価値がよく解明、評価されているとは言い難い。本研究は、舟橋聖一「戦後期資料」をもとに、舟橋聖一がとった戦後の大衆化路線の仕事とその歴史的意義を、舟橋と関係する知識人や政治経済芸能との関係を踏まえながら究明し、最終的には、先の戦前期研究成果と連動させ、舟橋聖一とその時代の文学を総合的に解明する。

### 2. 研究の目的

舟橋聖一は戦前・戦中・戦後を通じて日本文学界を牽引し続けた作家であり、著作や資料を調査するだけで、当時の文化状況のみならず政治経済の動向までもが浮かび上がってくる稀有な存在である。しかしながら、舟橋の残した戦後の著作や資料の多くは未だ手つかずのままであり、その全貌をうかがうにはほど遠かった。

本研究は、(1)未公開の「舟橋宛の葉書・書簡680通」を含む(のちに2000通以上と判明)舟橋の残した「戦後期資料」を、滋賀県彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」と舟橋聖一長女・舟橋美香子氏を代表とする遺族の全面協力によって総合整理し、公表の準備を進めること、(2)戦前と連続させる形で、舟橋聖一の戦後の大衆化路線の仕事とその歴史的意義を、死去12日前に作成された「舟橋聖一遺書」(1976・1)までを対象として解明することを目的とする。

### 3. 研究の方法

舟橋の「戦後期資料」を三か年の中でとりまとめ、その全体を知ることのできる「舟橋聖一 戦後期 著作行動資料年譜」を作成し、舟橋のとった戦後の大衆化路線の解明を行った。その目的達成のために、平成26年度は、「舟橋聖一宛の葉書・書簡680通」の分析および舟橋に關係する人物調査に特化した。平成27年度は、NHK大河ドラマ関連資料および芸能関連資料の分析に特化した。平成28年度は、(1)「舟橋聖一 戦後期 著作行動資料年譜」を完成させ、平成24-25年度、科研費・挑戦的萌芽研究において作成した戦前期版と合わせて完成版とし、滋賀県彦根市立図書館で公開し、一般向け講演会を実施した。(2)国内外の研究会で発表し、新聞雑誌に投稿した。(3)それらを統合して研究報告書として単行本2冊の刊行する段階にきており、初年度からの研究蓄積の結果を外部に発信することに特化した。

### 4. 研究成果

(1)初年度となる平成26年度は、舟橋聖

一の戦後の写真をすべてデジタル化し、舟橋家および滋賀県彦根市立図書館内「舟橋聖一記念文庫」に納めた。また舟橋の資料中に移民関係資料があることがわかり、戦後とかわる形で、日本移民学会「第24回年次大会」において「戦前期の文学にみる船旅」を発表した。さらに、文学の大衆化と大きくかわる「直木賞」に関する研究も進め、『イン・ザ・プール』の大衆性 - 神経病文学における史的位 置 - 」を書き、共著『神経病と文学 - 自分という不自由』として刊行した。そして前年度までの2ヶ年間、挑戦的萌芽研究「舟橋聖一全資料に基づく 戦前期 文学の総合的研究」の成果と合わせる形で、博士論文「舟橋聖一論 - 『抵抗の文学』を問い直す」(総合研究大学院大学)を執筆、受理された。

(2)2年度となる平成27年度は、未公開の「舟橋聖一宛の葉書・書簡680通」を調査・整理することによって、文学研究に新たな展開を起こした。その成果の一端を新聞紙上(10紙)で報告した。例をあげれば、京都新聞(2015・3/20)に「舟橋聖一宛て文豪の書簡」と題し、川端康成や三島由紀夫らの書簡を紹介した。朝日新聞(2015・9/7)に「芥川賞選考 見えた文壇の裏舞台」と題し、芥川賞選考委員だった舟橋に渡辺淳一や北杜夫、大庭美奈子らがその駆け出し時代、お礼の手紙を送っていたことから、文壇というもの の存在をあらためて浮かび上がらせることができた。京都新聞(2016・3/20)に舟橋の遺書を発見したことを「舟橋聖一 苦悶の「遺書」と題し、家族を取り巻く不幸と、祖父が足尾銅山鉱毒事件に関わったこと の因縁につき提示することにより、彼の奔放なイメージを覆した。舟橋聖一と競馬文化を追いかけることにより、第11回週刊Gallopエッセイ大賞(産経新聞社)を「舟橋聖一の愛馬命名と女たち」で受賞した。その後は2015年10月から2016年3月までの半年間、『週刊Gallop』に「馬の文化手帖」のタイトルで、井上靖や北杜夫ら芥川賞や直木賞作家から岡本太郎や赤塚不二夫ら画家や漫画家にいたるまで、多くの文化人と馬の関わりをとらえ、大衆文化研究にあらたな領域を切り開くことができた。NHK大河ドラマの第一作目となった舟橋原作「花の生涯」につき、なぜ舟橋がそれまで書いたことのない歴史小説を書いたのか、その謎を解くことができ、国際日本文化研究センターにおける共同研究会(戦後日本文化再考)で発表することが出来た。

(3)最終年度となる平成28年度は、彦根市立図書館創設100周年記念(プレミアム講演会)において「井伊直弼とマッカーサー 舟橋聖一「花の生涯」前夜 (2016・10/23)、「芥川賞作家の手紙からみる文壇交流」(11/13)と題して講演した。阿部知二研究会・秋季研究大会(姫路文学館)において「阿部知二の舟橋聖一宛て書簡 - 文字資

料から見る文壇交流」(2016・12/3)と題して講演した。2016年2017年1月から3月まで『週刊Gallop』に「馬の文化手帖 Season2」のタイトルで昨年同様、作家と競馬の関係を追究したが、Season2では特に競馬場との関係を大正昭和で活躍した吉田初三郎が描いた鳥瞰図を用いつつ書いた。そして、こうした各年度の成果を踏まえ、博士論文を単行本にする(11月刊行)。また舟橋のつけていた家計簿を用いた単行本、さらに『週刊Gallop』に連載した競馬関係の単行本も随時刊行予定であり、舟橋を中心とした戦前からの視点でとらえた再「転向」という、戦後の大衆文化の動向変化のあり様を提示し、社会への還元とする。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

(雑誌論文)(計12件)

#### 【査読無】石川肇

- 1, 「京の姿なき競馬場」(「馬の文化手帖 Season2」第12回)『週刊Gallop』2017・3/27、4/2号(P96 - 97)
- 2, 「台湾の競馬場」(「馬の文化手帖 Season2」第11回)『週刊Gallop』2017・3/21、3/26号(P110 - 111)
- 3, 「桜島とチャールストン」(「馬の文化手帖 Season2」第10回)『週刊Gallop』2017・3/13、3/19号(P104 - 105)
- 4, 「樺太の競馬場」(「馬の文化手帖 Season2」第9回)『週刊Gallop』2017・3/6、3/12号(P82 - 83)
- 5, 「旭川風物詩」(「馬の文化手帖 Season2」第8回)『週刊Gallop』2017・2/27、3/5号(P102 - 103)
- 6, 「高知城下の馬ぞろえ」(「馬の文化手帖 Season2」第7回)『週刊Gallop』2017・2/20、2/26号(P102 - 103)
- 7, 「馬肉と風林火山」(「馬の文化手帖 Season2」第6回)『週刊Gallop』2017・2/14、2/19号(P124 - 125)
- 8, 「犀川のほとり」(「馬の文化手帖 Season2」第5回)『週刊Gallop』2017・2/6、2/12号(P102 - 103)

- 9 , 「白鷺と馬のコラボレーション」(「馬の文化手帖 Season2」第4回『週刊Gallop』2017・1/30、2/5号 (P88 - 89))
- 10 , 「北朝鮮の競馬場」(「馬の文化手帖 Season2」第3回)『週刊Gallop』2017・1/23、1/29号 (P102 - 103)
- 11 , 「馬嘶く赤城山」(「馬の文化手帖 Season2」第2回)『週刊Gallop』2017・1/18、1/22号 (P100 - 101)
- 12 , 「鳥瞰図と馬産地」(「馬の文化手帖 Season2」第1回)『週刊Gallop』2017・1/9、1/15号 (P188 - 189)

〔学会発表〕(計0件)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

石川肇 (ISHIKAWA, Hajime)  
国際日本文化研究センター・インスティテューショナル・リサーチ室・助教  
研究者番号：80596734

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：

### (4) 研究協力者

( )